

基山町議会
議長 重松一徳様

総務文教常任委員会
委員長 末次 明

所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を終了したので、その結果を報告します。

記

1 調査事項及び調査期日

(1) 学校給食センター及び学校給食の現状と課題について

基山町学校給食センター視察、若基小学校で給食試食、意見交換
令和4年7月15日（金）

2 調査結果

基山町学校給食センターは、町内3小中学校の給食1,470食を調理し、各学校に配送している。

給食センター及び学校現場では、新型コロナウイルス感染防止対策に苦心し、ロシアのウクライナ侵攻による市場の混乱もあり、食材費や燃料代等の高騰で厳しい現状に直面している。

子どもたちにとって、給食による食事摂取は極めて重要であり、十分な量と質を確保するとともに、保護者の負担増は回避しなければならない事項と当委員会は認識している。

今回は学校給食センターの調理現場の視察を行い、若基小学校で給食を試食し、学校長、教頭、栄養教諭、教育学習課との意見交換会を行った。

(1) 学校給食センターの課題と対策

ア 新型コロナウイルス感染症が発生して以降、感染症対策には万全を期している。また、食中毒や異物混入には納入業者とともに細心の注意を払っている。

イ 食物アレルギー対応については、不注意では済まされない命に係わる作業であると認識し、アレルギー対応専用ラインを設け個別の対応食を提供

している。

ウ 給食は適切な栄養の摂取、健康の保持と増進のために必要であり、児童生徒から好感を持たれ「おいしい」と言われる給食を目指している。

(2) 学校での給食の目的と対策

ア 学校給食は成長期にある児童生徒の健全な発達に必要なものであり、食に関する正しい理解のもと、適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものである。

イ 小学校入学時から、給食を地域の伝統的な食文化、佐賀県産・基山町産の地産地消の重要性を学ぶ教育の一環として捉えている。

ウ 学校給食だけでは摂取栄養素に限界がある。児童生徒の食べ残しや自宅での朝食・夕食の摂取確認も重要であり、望ましい栄養バランスについて「給食だより」を配布し、情報を発信している。

エ 子どもたちは給食当番等をするすることで、各自の役割を認識している。また、新型コロナウイルス感染症対策として配膳、食事時の座席配置等にも注意を払っている。

(3) 基山町議会総務文教常任委員会として

給食費は月額で小学生4,500円、中学生5,300円となっている。給食費は「食材費の負担」であり、給食センター設備運営費、光熱費等は町が負担している。

今年度になり、食材費が高騰している。町は「今年度中は給食費を値上げしないように補正予算を組んで取り組む」としているが、今後も新型コロナウイルス感染症の長期化やアレルギー反応児童の増加、そして食材、光熱費の高騰など学校給食を取り巻く環境は厳しくなると思われる。

当委員会としては、「子どもたちには、安心安全で栄養バランスのとれた給食を食べていただきたい」との思いがある。今回の所管事務調査で、給食センター職員、学校関係者とも現場では細心の注意を払い、真摯に取り組まれていることを再認識した。